

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-145 改0
提出年月日	平成30年2月19日

付録21 計算機プログラム（解析コード）の概要・ORIGEN2

## 目次

1. はじめに	1
1.1 使用状況一覧	2
2. 解析コードの概要	3

1. はじめに

本資料は、添付資料において使用した計算機プログラム（解析コード）ORIGEN2について説明するものである。

本解析コードを使用した添付資料を示す使用状況一覧、解析コードの概要を以降に記載する。

1.1 使用状況一覧

使用添付書類		バージョン
V-1-3-4	使用済燃料貯蔵槽の冷却能力に関する説明書	2.2 (June 2002)
V-1-3-5	使用済燃料貯蔵槽の水深の遮蔽能力に関する説明書	2.2 (June 2002)
V-1-7-3	中央制御室の居住性に関する説明書	2.2 (June 2002)
V-1-9-3-2	緊急時対策所の居住性に関する説明書	2.2 (June 2002)

## 2. 解析コードの概要

項目	コード名 ORIGEN2
使用目的	使用済燃料貯蔵設備の崩壊熱評価 制御棒の線源強度計算 中央制御室及び緊急時対策所の居住性に係る被ばく評価
開発機関	米国オークリッジ国立研究所 (ORNL)
開発時期	1980年
使用したバージョン	2.2 (June 2002)
計算機コードの概要	<p>本計算機コードは、使用済燃料等の核種生成量、崩壊熱量並びに中性子及びガンマ線の線源強度を評価するためにORNLで開発され公開された燃焼計算コードであり、原子力発電所施設、再処理施設、廃棄物処理施設等幅広く設計に利用されている。</p> <p>また、国内の最新の使用済燃料についての評価精度向上を目指し、日本原子力研究所シグマ委員会核種生成量評価ワーキンググループにおいてJENDL核データセットに基づくORIGEN2用ライブラリが作成され、公開されている。</p>
検証 (Verification) 及び 妥当性確認 (Validation)	<p><b>【検証 (Verification)】</b></p> <p>本計算機コードの検証の内容は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算機機能が適正であることは、コード配布時に同梱されたサンプル問題の再現により確認している。</li> <li>・本計算機コードの運用環境について、開発機関から提示された要件を満足していることを確認している。</li> <li>・本計算機コードは、燃焼計算によって得られた核種生成量から炉心内蔵量等々を評価するコードであり、計算に必要な主な条件は組成、照射条件、核データライブラリである。</li> </ul> <p>これら評価条件が与えられれば評価は可能であり、本計算機コードは使用目的に記載する評価に適用可能である。</p> <p><b>【妥当性確認 (Validation)】</b></p> <p>本計算機コードの妥当性確認の内容は次のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・米国原子力学会 (ANS) のNuclear Technology vol. 62 (1983年9月) の「ORIGEN2 :A Versatile Computer Code for Calculating the Nuclide Compositions and Characteristic of Nuclear Materials」において、ANS標準崩壊熱との比較及び使用済燃料中のウラン、プルトニウム、アメリカシウムなどの組成の実測値との比較により妥当性の確認を行っている。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・日本原子力研究所シグマ委員会にて開発されたORLIBJライブラリについては、「JENDL-3.3に基づくORIGEN2用ライブラリ:ORLIBJ33」JAERI-Data/Code 2004-015(2004年11月)等において、核種生成量について照射後試験結果と、本計算機コードによる計算値を比較することで妥当性の確認を行っている。</li><li>・今回の使用目的に記載する評価は上記妥当性確認内容と合致しており、本計算機コードの使用は妥当である。</li></ul>
--	---